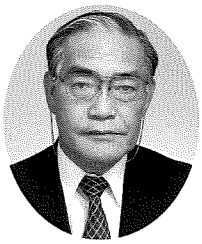
随　筆

那珂川の洪水被害と河川改修

中央技術㈱
飛　田　忠　一



那珂川は生まれてこの方、私の人生に深く関わり、生活に密着してきました。

まず、生まれて約１ヶ月後の昭和22年カスリーン台風（1947. 9）で、戦後関東地方に未曾有の被害をもたらした洪水で唯一浸水被害を受けております。記憶には無いのですが、親戚の助けも船を使ってのことと聞かされていました。また翌昭和23年アイオン台風（1948. 9）が襲来し、山岳部の相当な降雨量により被害をもたらした。この災害を契機として水戸市城東、若宮地区の那珂川改修が始まり今に進んできております。

その後の主な出水は、昭和33年台風10号（1958. 7）、昭和36年台風６号（1961. 6）、昭和39年台風14号（1964. 8）と繰り返し、そして就職した年の秋、昭和41年台風26号（1966. 9）出水がありました。更に昭和47年台風20号（1972. 9）があります。

近年になっては昭和61年台風10号（1986. 8）の出水に逢い、茨城県では那珂川のほか、小貝川でも大きな被害を受け河川改修の見直しの契機となる被害が発生し「河川激甚災害対策特別緊急事業（通常：激特事業）」による、集中投資によった災害複旧事業を現場（当時常陸太田市に河川事務所が所在）で進めてきました。更に栃木県区間の逆川でも氾濫し、同様に激特事業にて災害複旧を実施しております。これらの事業で水戸地区では概ね常磐線那珂川橋梁及び水府橋までの区間の堤防築造が概成することになります。平成に入り、激特事業を進めている中で、平成３年台風12号（1991. 8）で、水戸市根本町地先で一部の用地未買収地の仮堤防区間が壊れ、水戸市役所職員の方々が、総出（約300人の方）で土嚢積みの災害複旧対策をされたことが、今も記憶に残っています。

改修を進めている途上の、平成10年台風４号（1998. 8）と前線豪雨による栃木県北部を中心とした豪雨で、那珂川は近年での最大出水となり、酪農牛の流されたニュース映像は衝撃でした。この出水で国道４号余笹橋の流失もあり東北への動脈が寸断されるという災害を受けたことは記憶に新しいことでした。この災害に対応する新たな制度、「河川災害復旧等関連緊急事業（通常：復緊事業）」が採択され一気に改修が進むことになりました。事業実施には県や地元行政、住民の方の協力を得て改修を進めました。この災害復旧工事を実施中の、翌年の平成11年前線豪雨（1999. 7）で再度、被害を蒙りました。施工箇所は水没し手戻り等も発生しましたが、その後に続く事業につながる関係者の努力には敬意を表します。平成14年台風６号（2002. 7）の出水から水府橋、ＪＲ水郡線の架け替え、ホテル・家屋の移転等長年の課題であった事業が進むことになり那珂川下流低平地の堤防築造が進み無堤地解消も見えてきたような気がします。

地震や津波被害についても特筆すべき災害でありました。昭和35年チリ津波（1960. 5）の津波被害以来の平成23年東日本大震災（2011. 3. 11）では津波被害のほか堤防の陥没、液状化による堤防の滑り破壊が各所に発生し多大な被害を受けています。地震災害等、新たな出水対策を考慮した那珂川改修を考えることが必要になって来ています。

那珂川も変化しています。私も、健康で、元気に、そして那珂川、涸沼川の、これからを見守って行こうと思う今日この頃です。

略　　歴：飛田　忠一
1947年　茨城県水戸市（旧常澄）生まれ
1966年　水戸農業高等学校卒
　　建設省（現国土交通省）採用
2003年　（一財）日本建設情報総合ｾﾝﾀｰ採用
2015年　中央技術㈱　入社
保有資格：技術士（建設部門）、測量士補
　　一級土木施工・二級造園施工管理技士
　　公共工事品質確保技術者（Ｉ）